



## アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.46 / 2010年6月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第46号をお届けします。今回は、WS40およびWS41の開催案内、AP研アンテナの歴史委員会からのお知らせです。

### 【1】アンテナ・伝播における設計・解析手法ワークショップ(第40,41回)開催案内

アンテナ・伝播研究専門委員会では、関連する研究専門委員会と連携して、1994年度から第二種研究会として「アンテナ・伝播における設計・解析手法ワークショップ」を開催して参りました。今回、大好評でありました第39回ワークショップ「アンテナ基本測定技術」をテーマとした初級コースの再開催を2か所で行います。本講義は、主に小形アンテナの開発者を対象とし、基礎的な測定技術と各種応用測定の手法、さらに測定の実例の習得を目的とします。ご興味のある方の受講をお待ちしております。先着順のため、早めにお申し込みください。(第40回と41回は共に第39回と同じ内容での再開催です。)

#### 記

- ◆ワークショップ: アンテナ基本測定技術
- ◆講師: 石井 望(新潟大)
- ◆日時: 2010年9月10日(金) 9:30~17:00 第40回(福岡市)  
2010年9月13日(月) 10:30~18:00 第41回(大阪市)
- ◆会場: (第40回)福岡市中央区渡辺通 2-1-82 電気ビル本館地下2階7号会議室  
(第41回)大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階, キャンパスポート大阪ルーム D・E
- ◆受講定員: 50名(第40回福岡), 80名(第41回大阪)
- ◆受講料(テキスト代込): 一般/会員 13,000円, 非会員 20,000円  
学生/会員 3,000円, 非会員 7,000円
- ◆受講申し込み期間: 2010年6月21日(月)~2010年8月2日(月)  
(先着順のため、満員になり次第締め切らせていただきます。)
- ◆受講申し込み方法:  
(第40回福岡会場)九州支部のwebページ <http://www.ieice.org/kyushu/> からワークショップのページをご覧ください。また、電子情報通信学会九州支部管轄の会員、賛助会会員企業の方は、特典がある場合がございますので、申し込み前にご確認ください。  
(第41回大阪会場)アンテナ・伝播研究会 Web ページ <http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/> からワークショップのページをご覧ください。
- ◆共催および協賛:  
第40回 共催: 電子情報通信学会九州支部,  
協賛: IEEE AP-S Japan Chapter および Fukuoka Chapter  
第41回 協賛: IEEE AP-S Japan Chapter および Kansai Chapter
- ◆問合せ先: アンテナ・伝播における設計・解析手法ワークショップ  
第40回および第41回実行委員会(委員長: 新井 宏之(横浜国大))  
総務担当幹事 福迫 武(熊本大) E-mail: [fukusako@cs.kumamoto-u.ac.jp](mailto:fukusako@cs.kumamoto-u.ac.jp)

### 【2】AP研アンテナの歴史委員会からのお知らせ

「日本の電気電子・情報関連卓越技術データベース(卓越 DB)」が電気のデジタル博物館のホームページ(<http://dbjet.nii.ac.jp/pub/junior/>)で公開されていますので是非ご覧下さい。卓越DBは、電気電子・情報関連分野の5つの学会(映像情報メディア学会、情報処理学会、照明学会、電気学会、電子情報通信学会)で連携した活動の一環として2006年度から取り組んでおり、各学会の論文賞と業績賞からデジタルアーカイブ化を進めています。

AP研からは現在14件が「通信」カテゴリーの「通信に関わる技術」に掲載されています。

- ・宇宙開発・衛星通信用大口径アンテナの研究(1967年)
- ・技術試験衛星「きく2号」によるミリ波帯電波の研究(1978年)
- ・小型アンテナ「超伝導ダイポールアレーアンテナ」の研究(1981年)
- ・2周波レーダによる降雨減衰の測定(1982年)
- ・フェイズドアレーアンテナの設計手法の確立(1982年)
- ・アレーアンテナの設計(1983年)
- ・指向性と偏波特性に優れた4,5,6 GHz帯共用オフセットアンテナ(1985年)
- ・通信衛星搭載用ホーンアンテナ(1986年)
- ・プラズマの研究に適したアンテナの開発(1987年)
- ・ドームアンテナの走査特性(1988年)
- ・「準マイクロ波帯移動通信システム」の電波伝搬特性(1991年)
- ・薄型平面アンテナの研究(1993年)
- ・スロットアンテナの応用に関する研究(1998年)
- ・衛星同士の通信用アンテナの開発(1998年)

### 【3】AP研副委員長の戯言

4月のAP研究会は同志社大学で開催されましたが、会場世話人の岩井誠人先生にはお世話になりました。室町キャンパスは洗練された女子学生が多く、華やかな雰囲気でした。進士昌明先生からアンテナ開発と無線システム設計と題して特別講演をいただきました。先生は1965年IEEE AP-S Annual Best Paper Awardを受賞されていますが、日本人受賞者が少なく、研究会参加者に奮起を促されていました。

2010年4月16日に起きたアイスランド火山噴火の影響で、欧州便の飛行機がキャンセルされる中、EuCAP(4月12日-16日)参加者がバルセロナからどのように帰国したか、また、外国出張中の危機管理について何人かの方に寄稿してもらいましたので、紹介します。

- (1) A 先生 私の場合は現地の金曜日(4/16)、パリ経由をローマ経由に変更して予定より4時間早く帰りました。帰りのフライトのキャンセル情報を受け取ってすぐ、日本と連絡を取って航空会社に対応してもらったのが功を奏したようです。ローマ発のアリタリア便は中国上空を通るので北極回りの影響を受けなかったようです。
- (2) B 先生 バルセロナで、イスタンブール経由成田行きの飛行機を手配してもらいましたが、イスタンブールに行ったら、予約がされて無くて、再度、イスタンブールで手配してもらい、ドバイ、インチョン、成田という経路で帰りました。航空機の予約については、全行程を通して、同一の航空会社にしていただいた方がよい。帰国するのに最も重要な路線は、現地のローカル路線ではなく、長距離路線の方である。日本の航空会社チケットを持っていた人は、ヨーロッパ内の接続便は別の航空会社になったので、結局、帰国の便はキャンセルし、別の航空会社の便を取り直した。そのため、追加の宿泊費も含め、大幅なコスト増(ほぼ倍増)となった。インターネットで情報を得てもらえなかった。空港へ行って、直接窓口へ向かい交渉する。すぐに対応できるよう、荷物もすべて持って行くことが重要。
- (3) C 先生 4/21バルセロナー(Vueling航空)ーローマー(Qatar航空)ー4/22ドーハ(カタール)ー(Qatar航空)ー関西ー(全日空)ー羽田。火山と反対向きに飛ぶため、ロンドンに戻ろうとしたが、ロンドンに戻っていたら帰る日はもっと遅くなっていたらう。早めに航空券の手配(18日にWEBで手配)をしたが、乗れたのは21日だった。どうしても2,3日先の予約しかとれなかった。陸路(列車、バス)の移動は大変と思われる(もともと容量がないと思われる。フランスの国内の列車は止まっていた、国際列車だけが動いていたようです)。高額でも経路変更が可能な航空券で行くのがよい(日程変更だけが可能で、経路変更は受け付けてくれませんでした)。

この他、モスクワ経由、カイロ経由で帰国された方もおり、皆さん、大変な苦勞をされていました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 正源和義(NHK)

E-mail : [ap\\_ac-chair@mail.ieice.org](mailto:ap_ac-chair@mail.ieice.org) (AP研執行部のメールアドレス)

AP-NET : AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて

AP研HP : <http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/>

ISAP Archives : <http://ap-s.ei.tuat.ac.jp/isapx/>

